**成田　連治 （なりた・れんじ）**

**１、プロフィール**

昭和26年、五所川原短歌会を結成、のちに会長。32年、歩道短歌会入会。佐藤佐太郎氏に師事。日本歌人クラブ会員。県歌人懇話会幹事。県下短歌大会の選者を歴任した。

＜生没＞

1910（明治43）年12月７日～1983（昭和58）年２月10日

＜代表作＞

歌集『岩木川』

＜青森との関わり＞

成田連治（本名・治逸）は五所川原市田町に生まれ、同市旭町に写真館を開業。終生、短歌を愛した。

**２、作家解説**

昭和６年に東京下落合、オリエンタル写真学校卒業、同７年に五所川原市旭町に写真館を開業した。

作歌を始めたのは13年頃から、白戸蕗花、林柾次氏らの作家活動に心惹かれて習作し、歌作を奨められ添削もうけた。

26年には五所川原短歌会を結成して事務局長となり、のちに会長を務めた。30年に同短歌会の機関誌「梵珠」を発刊、編集を担当する。

32年、歩道短歌会に入会。37年同人となる。

33年、歩道五所川原支部結成、発起人となる。

36年、陸奥新報社主催、文芸コンクール20首詠に特選となる。

39年、東奥日報社紙上に「冬の十三湾」10首掲載される。

45年、日本歌人クラブ会員となる。

46年、青森県歌人懇話会幹事。

47年から青森県歌集に毎年投稿する。

49年10月６日、蘭菊会発祥の地記念碑建立除幕式挙行。

50年、青森県文化振興会議評議員。五所川原市文化振興会議監事に就任。

54年４月20日、第１歌集『岩木川』発刊。

35年頃より、県下各地短歌大会第１位受賞４回。明治神宮記念歌会、靖国神社記念歌会、短歌研究大会に投稿して入選。35年より53年までに次の地区県下短歌大会の選者を毎年務めた（黒石市、観楓県下短歌大会・陸奥新報社主催県下短歌大会・金木町、観桜県下短歌大会・木造町、西の高野山県下短歌大会・中里町、北湖県下短歌大会・鰺ヶ沢町、県下短歌大会）。それらの功績により、51年に五所川原市文化奨励賞。

52年に第２回青森県歌人功労賞、五所川原市文化褒賞を受賞した。

**３、資料紹介**

〇歌集『岩木川』

図書

1979（昭和54）年４月20日

209mm×146mm

佐藤佐太郎に師事した著者の第１歌集。「年老ゆると共に郷土に対する愛着心が強まり、その特殊性を具体的に描写することに喜びを感じるようになった。歓びの日は岸打つ波音に胸はずみ、悲しみの日はとよむ流れに心改め年を経た」と言う著者21年の足跡が詠われている。